

月報

48号

発行所

青丘文庫

編集・発行★韓 哲 暉

〒654 神戸市須磨区須磨寺町4-3-1

メゾンド青丘ビル2階

TEL(078)734-5989 FAX 735-0660

朝鮮民族運動史研究会 第八六回例会

(一九八九年九月一七日)

―朝鮮に於ける西学の受容と反応―

姜 在彦

去る一九八六年は丁若鏞(茶山)逝去一五〇周年にあたる。韓国のある研究支援財団は、それを記念した学術研究をその出版事業を推進している。

じつはその逝去一〇〇周年にあたる一九三六年前後にも、鄭寅普、安在鴻らを中心とした記念行事があり、『興猶堂全書』などが編まれた。当時皇民化政策による民族文化の抹殺に抵抗して、一〇〇周年行事にかこつけてそれを守ろうとする意図があった。一五〇周年行事ではその間の研究蓄積を総点検し、未解決の問題の研究を支援して「茶山学」の一步前進を意図したものであった。

周知のように丁三兄弟は、一八〇一年の天主教弾圧によって若鏞は死刑、若鏞と若鏞とは刃地流罪に処せられた。

私はこの行事の一環として朝鮮における西教(天主教)と西学(西洋の学術)の受容と反応を歴史的に体系化し、それを単行本として出版する作業を分担させられた。それをようやく書きおえて、この八月に提出した。つぎにその目次をかかげて、その構想のあらましを報告することにした。

朝鮮後期の西学史

目次

まえがき

序章「北学」による西教と西学

第一章 イエズス会の東方伝道とマテオ・リッチ

一節 朝鮮に伝来したマテオ・リッチの

西洋書と世界地図

二節 マテオ・リッチと華教士人

光啓と李元藻

第二章 一七世紀の西学伝播

一節 明清交換期のイエズス会士

二節 相次ぐ西学伝播

第三章 一八世紀の西学伝播と反応

一節 中国と日本における西教と西学

二節 西学受容と西教批判

三節 北学派の西学観

第四章 正祖時代の西学受容と葛藤

一節 イエズス会の解散と在清宣教師たち

二節 星湖左派の西教受容

三節 辛酉勦難と西学への波及

終章 一九世紀の西学と開国

一節 日本と中国の西学と開国

二節 朝鮮に於ける西学の「落」と開国

主要参考文献

人名索引

在日朝鮮人運動史研究会(一一四回)例会報告

一九八九年九月十日

GHQ占領軍の治安取締体制
と在日朝鮮人

金 英 達

第二次大戦後の米ソによる占領時代は、朝鮮現代史のターニングポイントである。そのことは、在日朝鮮人史についても同じであり、GHQ占領期におけるアメリカ軍の在日朝鮮人政策が、その後の在日朝鮮人の民族運動を抑圧する枠組みを形づくったと言えるだろう。

GHQ占領軍の在日朝鮮人政策の本質は、「共産主義の抑圧」と「民族自決の否定」の二つを軸とする反共帝国主義である。したがって、その時期は、朝鮮戦争を頂点として、朝鮮人共産党員に指導された在日朝鮮人の民族運動とGHQ占領軍との衝突の時代であった。

GHQ占領期の在日朝鮮人抑圧政策のなかでも、「みなし外国人」規定に基づく外国人登録令による出入国・在留規制および強制送還、「依然として日本国民」規定に基づく学校教育法による民族教育規制・朝鮮人学校弾圧は、もっぱら在日朝鮮人を対象にしたものであった。

そうした特別取締法制のほか、占領軍による“赤狩り”として猛威をふるった「反占領軍活動」規制のための一般的な取締法制による在日朝鮮人抑圧政策の構造を整理、概観してみた。

その「反占領軍活動」規制の取締体制は、次のような四つの面から整理することができる。

① 占領目的有害「行為」の規制・排除

その一 日本政府宛のGHQ/SCAPの覚書が出されている場合の占領軍命令違反……勅令三一一号、政令三二五号(占領目的有害行為処罰令)による日本の司法裁判による弾圧
その二 日本政府宛のGHQ/SCAPの覚書が出されていない場合の占領軍命令違反……占領軍の軍事裁判による弾圧

(この軍事裁判による事例として、首相官邸デモ、阪神教育闘争、共和国国旗掲揚弾圧事件をとりあげた。)

② 占領目的有害「人物」の規制・排除

勅令一号(公職追放令)その他の法令、占領軍命令による公職追放・教職追放・労働追放などのレッド・パージ

③ 占領目的有害「団体」の規制・排除

勅令一〇一号、政令六四号(団体等規正令)による団体解散、財産接收

④ 占領目的有害「情報」の規制・排除

G2(参謀第二部)のCCD(民間検閲支隊)による出版・報道の検閲

(この検閲の一事例として、『民主朝鮮』誌の記事の発禁・削除処分をとりあげた。)

以上、取締体制の概要を整理してみたが、個別の具体的な研究はさらに資料を収集・発掘して今後の課題としていきたい。

日韓・在日キリスト教関係史研究会 第一回例会

(一九八九年九月三十日)

『韓国キリスト教史』(関庚培著) 前半要約

信長正義

(第一回例会ということで、日本語に訳された朝鮮キリスト教の通史を読み合い、基本的な事柄を学習するために、関庚培著『韓国キリスト教史』『日本キリスト教団出版局』を選んだ。今回はその前半部分を要約し発表した)

著者はこの本で「はじめに」と「序論」に於いて、韓国キリスト教の特徴を示している。韓国のキリスト教が急速な拡張と発展を為したのは「韓国人の強い主体意識に、基本的な関心を与えてくれ、その悲劇と共に歩み、十字架のような忍従の道を歩いてくれたのは教会であった。当時全国的な広がりをもった共同体としての教会は、いきおい民族意識を刻印されつつ形成された」とし、また、韓国教会はアメリカの影響を受けた教派的教会の形態をとり、それは教会観の弱体化・教会分裂、そして日本の神道政治に対して否定的役割を果たしながらも、アメリカの宗教的植民地政策に対して肯定的なものとなった。また一つの特長性として、近代韓国が侵略的日本に抵抗し、日本に対する骨身にしみた反抗の意識を持つことに、その迫力と組織力を与えて同一性をもたらしたと述べている。

「近代以前のキリスト教との接触」では、秀吉時代の申任倭乱で、日本軍の多くに小西行長を始めとしてキリシタン武士がおり、イエズス会の従軍神父が韓国の地を踏んだが、彼らは韓国民衆が受けている惨禍に無関心であった。この時にこのよう

なキリスト教との接触や受け入れが無くて良かったという。

「ローマ・カトリック教会の韓国宣教」カトリックは中国から次第に韓国への影響をもたらし、西学としての新学問が台頭する。そして一七八四年に李承薫が最初の被洗礼者となり、帰国後多くの信徒を数え、実学思想の大家丁若鏞もその一人となった。翌年から金範禹の家で日曜日ごとの礼拝を行なっていたが、最初の殉教者となった(現在の明洞カトリック大聖堂は彼の家が在った所)。その後カトリック教徒の迫害が続くことになる。辛亥教難(一七九一)、辛酉教難(一八〇一)、己亥教難(一八三九)をみた。一八〇一年の黄嗣永帛書事件では信徒三〇〇余が殉教した。一八四五年に韓国人最初の神父となった金大建は翌年に処刑され、一八六六年の丙寅教難は大院君摂政下でのカトリック教徒大虐殺事件となつてフランスと衝突、同年のシャーマン号事件ではアメリカと衝突することになる。

このように韓国におけるカトリックの宣教の歴史は、悲しい殉教と受難の歴史であり、この西学は福音の伝道というキリスト教本来の使命を遂行しながらも、近代韓国の政治的危機に直接巻き込まれ、結果的には大逆謀反の元凶とみなされた。

「韓国のプロテスタント教会」一八七六年の江華島条約締結に続いて各国と条約を結ぶが、国内の各国の居住地でのみ信教出来るが、韓国人に対する宣教の自由は与えられなかった。しかし一八八四年の甲申政変で北米長老派宣教師派遣の医師アレック・グレンの傷を治療することによって宮中の信頼を受け、翌年四月韓国にプロテスタント宣教師が初めて入国した(長老派アンダーウッド、監理教アペンゼラー)。

それより先、米国宣教師を要請したのは李樹廷であり、徐相崙は韓国人の手による初の教会堂を松川に設立していた。

☆新図書案内

- 「105 事件」을 통해新民会研究 尹 慶老 ソウル 高麗大学 88年 6月
 朝鮮学報 第129号 朝鮮学会 奈良 天理大学 88年10月
 한국의 신흥종교 盧 吉明 대구 가톨릭신문사 89年 2月P320
 과주민 중 항쟁의 재인식 金 龍珠 東京 8月社 89年 2月P180
 한국어의 대동화 梁 東軍 ソウル 韓国研究院 88年12月P328
 韓国民衆史・現代篇 (1945~1980) 韓国民衆史研究会 東京 木蘭社 89年P269
 韓國民族解放運動史資料 書1 韓 洪九・李 在華 ソウル 88年 6月P570
 “ 2 “ “ (労働運動概況・治安概要等)
 “ 3 “ “ (軍官学校事件ノ真相等)
 “ 4 “ “ (城大三宅教授赤化事件)

証言集 (1)・(5) 1939年

- 思想月報 第1巻~第4巻 高等法院検事局思想部 ソウル 京元文化社 88年 8月
 駐韓美軍史1~4 임승남 “ 돌배개 88年 9月
 韓国史論1~14 ソウル大学校人文大学国史学科 “ 同所 88年 2月
 東方学志 第58号 延世大学校国学研究院 “ 同所 88年 6月
 韓国史研究彙報 第64号 国史編纂委員会 “ 同所 89年 3月

☆研究会御案内

〔在日朝鮮人運動史研究会〕第116回例会

日 時 1989年11月12日 (日) 午後2時

テーマ 日中戦争下における協和会の軍需品献納について

報告者 松田 利彦氏

〔朝鮮民族運動史研究会〕第88回例会

日 時 1989年11月19日 (日) 午後2時

テーマ 北満の抗日運動

報告者 森川 展昭氏

〔日韓・在日キリスト教関係史研究会〕第3回例会

日 時 1989年12月3日 (日) 午後2時

テーマ 韓国キリスト教史を読む2—田代浩一著—

報告者 後藤 聡氏・飛田雄一氏

場所はいずれも青丘文庫にて